九州ブロック

1.プログラム詳細

10 月 24 日（火）

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶（内閣府） 来賓挨拶（宮崎県）
10:40～11:40	60	講演① 大阪国際大学　人間科学部　人間健康科学科　教授 山口　直範 「高齢ドライバーの事故原因と防止策について」
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所　理事長　宮田　美恵子 「交通ボランティアの育成について」
13:40～13:50	10	昼休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	30	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評（コーディネーター） 日本こどもの安全教育総合研究所　理事長　宮田　美恵子
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2.講義等の記録

■講演①

大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授
山口 直範

「高齢ドライバーの事故原因と防止策について」

はじめに

・交通心理学とは

様々な基礎心理学を応用して、交通安全のための対策、教育、講習などに活用

・発達心理学とは

人間は胎児の頃から生涯にわたって発達していく概念のもと、よりよく生きるための心理学

発達心理学の観点から交通行動を理解する

・発達心理学とは、乳児期（胎児期を含む）から老年期まで、人間の生涯にわたる発達を扱う心理学

＜胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期＞

・「生涯発達」の考え方

人間の発達は若いころをピークに後は落ちていくものではない

人間は人生を全うする最後まで発達を続けていく

時間軸の中で加齢とともに心も体も行動も変化していく過程を発達と呼ぶ

老化現象は病気ではなく正常な体験「生涯発達」という考え方

・高齢者はすべてにおいて衰えていくものではなく、「老い」という人間の成長の最終段階に向かって発達を続けていくという考え

・健康で長生きして、満足と幸福を感じられるような老いの過程、上手に年齢を重ねていくことが生涯に渡る発達といえる

老化とは英語で Aging

・つまり年をとっていくこと（加齢）を示しているわけで、決して何かが悪くなったり、落ちていったりする意味ではない

⇒加齢は必然的な現象であり、加齢現象によって生じる交通行動を考えていく必要がある

高齢者の交通行動を理解する

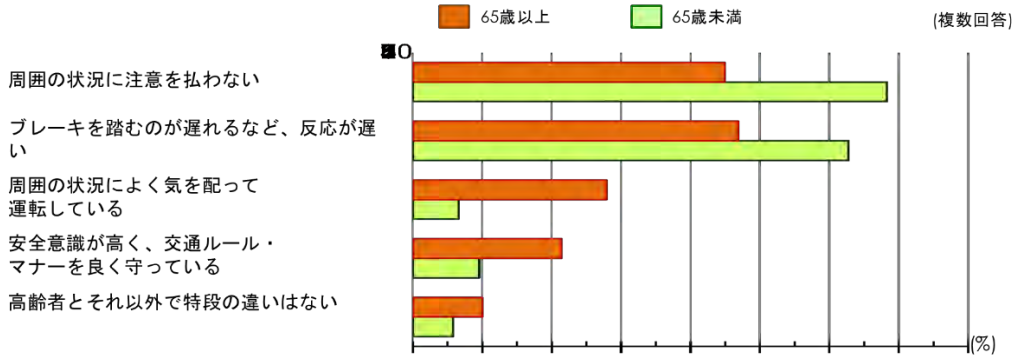
人間の発達と個人差（65 歳以上になると高齢者と呼んでひとまとめにしていいのか）

・高齢化社会ではなく日本はすでに超高齢社会

・ライフイベント

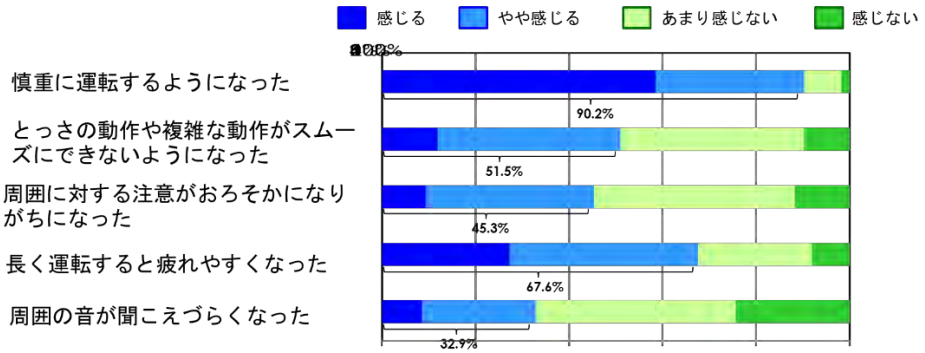
・人間は老年期になると身体能力の著しい低下がある
・退職後の人間関係が変化
・心理的には物忘れが多くなったり、勘違いが増えたり・・・

高齢者の交通行動を理解する
―高齢運転者に対する国民のイメージ―
調査対象: 運転免許を受けている全国の満 16 歳以上の男女 3,382 名（資料：石松一真教授（滋慶医療科学大学大学院）



出典: 平成 17 年度 警察白書 世界一安全な道路交通を目指して URL: https://www.npa.go.jp/hakusyo/h17/index.html
・全年齢層の平均で、「周囲の状況に注意を払わない」との回答が 66.0%、「ブレーキを踏むのが遅れるなど、反応が遅い」との回答が 61.2%であった
・65 歳未満の年齢層の回答者において、このような傾向が顕著であった

―自身の運転に関して若い頃と変わったと感じるか―
調査対象: 運転免許を受けている全国の満 65 歳以上の男女 1,092 名（資料：石松一真教授 滋慶医療科学大学大学院）



出典: 平成 17 年度 警察白書 世界一安全な道路交通を目指して URL: https://www.npa.go.jp/hakusyo/h17/index.html
/h17/index.html

・9 割強の高齢者が「慎重に運転するようになった」と回答した
・身体機能や認知機能の衰えを自覚している高齢者は、半数程度であった
⇒高齢者全体としては危険を冒す傾向は少ない
・状況によっては誤った判断から危険行動になってしまう
・社会性の欠如やルール遵守意識が低い結果ではない
・認知のミスによる結果としての危険行動
⇒高齢運転者に対するイメージと実際の認識に違いが生じている

ライフイベント―定年退職を境に社会との関係が変化―
・社会とのつながり
・経済力
・やりがいのある仕事や目的
・子どもの自立による自己存在の意味
⇒日常の中で大きな喪失となる

生理機能の変化
・成人期の後半：加齢の影響で小さい字が読みにくい、耳が遠くなるなど生理機能が変化（視覚機能低下は交通行動に直接影響）
・交通行動では視力だけではなく視野も重要な要素

暗順応の低下
・暗くなったときに視力を回復する機能が低下
・科学警察研究所の実験：70 歳以上では、視力回復機能の低下が著しいことを報告

身体機能の変化
・脚力の影響
・足の大腿筋を構成する筋繊維数は 30 歳代と比べると 60 歳代で 2 割、70 歳代で 3 割、80 歳代では約 5 割も低下

高齢歩行者の道路の横断の特徴
・道路を横断し始めると安全確認は終わってしまい、渡りきるまで下を向いて歩く
・危険回避の判断や行動が困難で、横断途中の確認や歩行速度の変化が苦手
・ハイマンの歩行速度と歩幅の実験：60 歳代を境に歩行速度が落ちて歩幅が減少していく
・女性に比して男性は、歩行速度、歩幅ともに落差が大きい

加齢によるよい変化もある（経験がものをいう）

結晶性（実用性）知能

・経験によって獲得された知能に基づきそれを生かす能力のこと　→　あまり加齢の影響を受けない能力といえる

知能の２つの構成要素における生涯発達

・70 歳ぐらいになり注意機能、情報処理過程などはなだらかに落ちていくが、文化的な知識や機能は落ちない

・交通安全の意識も高い結果が出ている（まさに経験がものをいう）

⇒先入観を持って高齢ドライバーを見ない

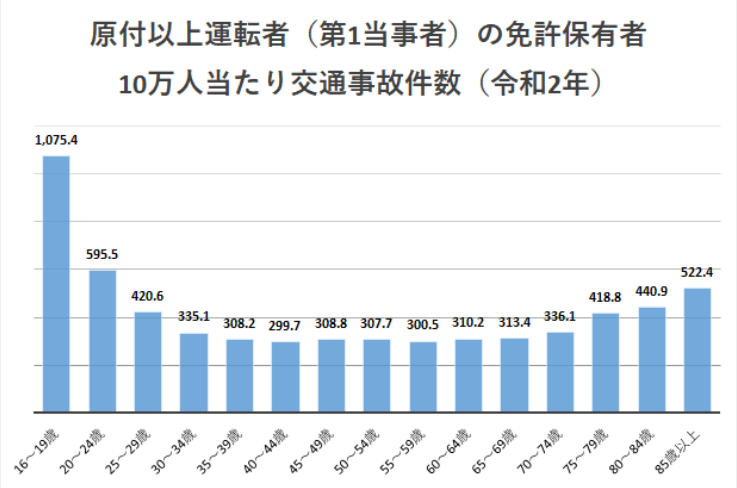
・例えば「自負心の保持」は、厳しい人生を乗り越えて今まで生き抜いてきたという自信のこと

⇒豊富な人生経験による豊かな知識と経験は、若者にはない高齢者だけが持つ財産といえる

高齢ドライバーは危険なのか？

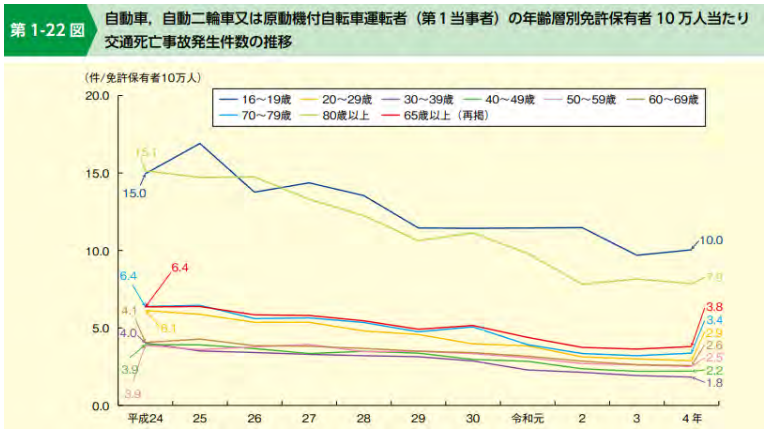
交通事故死者数は減少しているのに高齢ドライバーの事故による報道は良く見るが、高齢ドライバーの事故は増加していると言われるが本当なのか？また、危険なドライバーなのか？

原付以上運転者(第１当事者)の免許保有者　10 万人当たり交通事故件数（令和２年）



・10 代・20 代前半の方が高齢ドライバーに比べて多い

自動車、自動二輪車又は原動機付自転車運転者（第 1 当事者）の年齢層別免許保有者 10 万人当たり交通死亡事故発生件数の推移



・16～19 歳、80 歳以上は突出して高いが、それ以外の年代では事故率はさほど変わらない

安全確認行動得点

・蓮花（2002）は、教習所コースを利用して自分の運転に対して自己評価させ、指導員による評価との違いを調査

⇒指導員による評価では 60 歳以上では得点は下がっており、安全確認の回数も減ってきている

⇒自己評価においては 30 歳代のドライバーでは自己評価と指導員評価の差が少なかったが、中年層、60 歳以上、65 歳以上、75 歳以上と高齢化するほど開きが大きくなっていくことを報告

なぜ危険運転を安全だと思ってしまうのだろうか？

・尾入（2014）は、速度を抑えて運転すること、イコール安全運転だと信じ込んでいる可能性を指摘

・加齢とともに身体能力の衰えを自覚し、危険を避けるため自主的に速度を抑制することにより、自分は安全運転していると認識しているのだと考えられる

⇒見通しの悪い交差点では速度が低くても、減速が不十分であったり、一時停止をしなかったり、注意を怠ったことが大事故の要因となっていることが多い

⇒速度を抑制することによって事故被害が軽減される可能性はあるが、速度さえ抑制すれば安全な運転なのだといった思い込みがあると考えられる

交通手段の必要性

・高齢者になればなるほど、自動車は移動するための補助手段として必要な道具となる

・車を運転することは、行動範囲が広がり、積極的な人生を送ることにもつながっていく

高齢者ドライバーと QOL（生活の質）―より良く生きること（生きる上での満足度をあらわす指標）―

・QOL＝Quality of life（クオリティ　オブ　ライフ）は「生活の質」「生命の質」を意味し、精神的、社会的活動を含めた総合的な活力、生きがい、満足度という意味

⇒自動車の運転をやめれば QOL はどうなるのか？高齢交通参加のあり方を再考する必要があるのではないか

RoSPA（The Royal Society for the Prevention of Accidents）

鳴海汐（日英比較ライター）の記事から引用

・高齢運転者向け HP⇒「年を取るほど、ドライバーとしての経験が増えます。これは、年配のドライバーが、より安全で思いやりのあるドライバーになる傾向がある理由のひとつです」と記載

・免許返納の検討をすぐに勧めるのではなく、運転に関連する能力の衰えについては、再訓練であったり、全周視野を補助する補助ミラーや駐車センサーを付けたりといったことで改善できないかと提案している。夜道やラッシュアワー時など、ストレスがかかる運転を避けるなどして、より長く運転していけるよう提案

2017 年 10 月に高知県高知市の愛宕病院が日本で初めて開設した「自動車運転外来」

・リハビリテーション医学により認知機能が低下した高齢ドライバーの健康安全運転寿命を伸ばすことができるのではないか

富山市の LRT

行政によるまちづくりの一環で、高齢者の方が運転をしなくても良い生活を送れるように都心に LRT を導入し成功している事例もある

おわりに

高齢ドライバーだから危険な運転をするわけではない

高齢者といって一括りにせず、私たちが一人一人の能力に応じて年齢、性別、心身機能などの特性を客観的に評価して受容すれば生活の質と交通安全は、ともに確保できるのではないだろうか

■講演②

特定非営利活動法人　日本こどもの安全教育総合研究所　理事長

宮田　美恵子

「交通ボランティアの育成について」

1. 交通事故の状況

日本の交通事故死者数推移

・日本の交通事故死者数は減少している

・諸外国の中でも日本は事故が比較的少ないグループに属する

・歩行中の死傷者数は全年齢の中で 7 歳が突出している

2. 交通安全ボランティア活動の意義

【ボランティアとは】

意味：「社会への奉仕・自発的・自らすすんでやること」

語源：ラテン語の voluntus

有償・無償：日本では、無償の活動と捉える向きがある。しかし、社会や地域、他者のために自ら進んで支援したいという熱く強い思いこそが、ボランティアの本来の目的。有償・無償は本質的な問題でない

【ボランティア 4 原則（文科省）】

自主性・自発性：個人の自発的な意思に基づいて主体的に行うもの

社会性・連帯性：活動に際し、社会の一員としての自覚、周囲を尊重して協力することが大切

無償性・無給性：活動の対価として見返りを求めない

想像性・開拓性・先駆性：行政よりも自由で創造性をもって活動する。工夫し、全く新しいものを作り出す先駆性が大切

【子どもたちからみたボランティアさん】

「小中学生のころ、ボランティアの方々が交通安全を見守ってくれていたのを覚えていますか？」というインタビューに対しての回答

・暑い夏の日や冬などは特に大変そうだと思っていた

・自分のことでもないのに毎日やっていてすごい

・今、教員になって学校外で子どもたちの安全を見守ってくださっている方々のありがたさを身に染みてかんじています（今年度初任中学教師の女性）

・おかげで僕たちは無事に大人になれたと思います（今年社会人 1 年目の男性）

⇒子どもにもしっかり記憶されているボランティアさん。子どもたちにとっては地域の交

通安全教育の先生、モデルともなる欠かせない存在・活動である

3. 地域活動の理念「MATE」

【MATE：地域活動の理念】

「M」Man：できる人が

「A」Act：できる事を

「T」Time：できる時に

「E」Enjoy：楽しみながら

⇒MATE（仲間）創りであり、つながりをつくること

⇒仲間を増やしていくためには活動の意義や、無理のない範囲で具体的にお願いしたいことを声掛けしていくと効果的

4. 子どもの行動特性と声のかけ方

【幼児の行動特性に対する安全管理と教育】

・１つのもの、ことに注目する

・応用できない

・気分によって行動が変化

・抽象的な言葉は伝わらない

・大人に依存する・真似をする

・物陰で遊ぶのが好き

⇒危険を回避するため大人が先回りをして安全を確保するとともに、子どもとの約束や、発達に沿った教育が必要になる

【児童前期の発達と行動特性】

・就学を機に一人で行動することが増える

・友達と集団で行動するようになる

　⇒集団登下校などでは、みんなといると安全な気がして注意散漫になることが多い

【児童後期の発達と行動特性】

・集団で行動しているとき、わざと危険なことをする。危険行動が目立つ

　⇒道路で追いかけっこ、信号無視

【交通 3 原則＋１の具体化】

とまる：曲がり角の度に止まる習慣

まつ　：1～2 歩下がって待つ　歩道では歩道奥で待つなど

みる：「見る」でなく「視る」

わたる　：青信号は赤信号のつもりで再確認、ドライバーとのアイコンタクト

　⇒交通ボランティアの活動の一つとして「とまる・まつ・みる・わたる」ができているか指導してほしい。

その際には、子どもたちに伝わりやすい、「やさしい日本語」を用いるとよい。

　⇒専門用語や難しい表現を用いず、平易で短い言葉で伝えると、障害のある子や幼い子でも理解しやすい

■活動事例発表

宮崎県交通安全母の会 副会長

野村　美智子／神谷　則子

皆さんこんにちは。宮崎県交通安全母の会で副会長をしております、神谷と野村です。活動報告という事で「交通安全は家庭から」のスローガンで取り組んでおります。タイトルは交通安全啓発キャラバン隊となっていますけども、これに関連した交通安全活動を紹介させていただきます。

まず交通安全キャラバン隊とは何かということですが、交通安全母の会が交通安全思想の普及や交通事故防止に寄与することを目的に、宮崎県、宮崎県警と連携し、秋の交通安全運動期間中に交通安全の広報を行いながら、県内各地を巡回し、市町村を表敬訪問、訪問先の市町村長に知事メッセージを伝達するものです。こちらの写真は、昨年、令和 4 年度の交通安全母親活動指導者講習会の様子です。毎年一回、会員を対象に開催しております。県警から講師をお招きして、交通事故の報告、母の会として取り組むべきテーマなどを確認しております。

こちらは、令和 4 年度交通安全母親活動指導者講習会の様子です。わかりづらいかもしれませんが、スマホの使い方について勉強会をしているところです。交通事故関係だけでなく、シニアには若干ハードルが高くなりつつある。スマートフォンの取扱いについて学んでいるところです。

それからこちらは交通安全のマスコット、ほんの一部ですがご紹介です。各市町村では交通安全キャンペーンで配布、また小学校一年生に登下校の無事を願い贈るなどそれぞれの活動に活かされているマスコットです。

こちらは今年度、令和 5 年度交通安全母親活動指導者講習会の様子です。動画で危険予測トレーニング、角から人が出てくる、自転車が走ってくる、そういうものをどれだけ予知できるか、手元のスイッチで確認しながら、普段分かっていない、タイミングが遅れているところを確認しながら勉強会を行っております。こちらも母親活動指導者講習会の様子です。

ここからはタイトルになっているキャラバン隊の様子です。令和 4 年度のキャラバン隊の伝達式、コロナ禍で人数制限がありまして、伝達式に出席できる人数が限られていました。最初の訪問地は日南市です。庁舎の玄関口、車椅子のところで伝達式を行ないました。2 日目は宮崎市です。どこの訪問地も会員の皆様にお声がけして集まっていただいております。また昨年度から伝達メッセージと共に反射材のタスキも受け渡しております。

次に、令和 5 年度のキャラバン隊の出発式、伝達式です。今年からコロナが若干落ち着いたということで県庁の講堂で沢山の方に集まっていただき、知事からのタスキの贈呈もありました。毎回宮崎市の会員の方に協力していただきまして、出発式に花を添えていただいております。今年度の最初の訪問地、西米良村です。是非、写真撮影は彼岸花をバックにして欲しいということで、この写真になりました。職員の方も手を止めて参加していただくと

いう、とても熱い歓迎をしていただきました。1 日目の最後、西都市。とても新しい庁舎の中で快適にさせていただきました。そして 2 日目、木城町です。会長のお膝元とのことでとても賑やかな歓迎をしていただきました。次に川南町です。交通事故ゼロを目指すということころで、会員さんも「0」というポーズをしています。次は高鍋町、高鍋警察署署長さんが挨拶をしているとことです。後ろに県警のマスコット「みやけいちゃん」も映っております。今年度最後の訪問地、新富町です。会長がとてもユニークな方で、終始笑いの絶えない伝達式となりました。どの訪問先でも大勢の方に迎えられまして、更にお見送りは人数が増えるという、とても温かいキャラバン隊の最後となりました。以上、キャラバン隊を中心に活動方法をさせて頂きましたが、いついかなる状況であっても、被害者にも加害者にもならないよう、充分な気配りを心がけ、交通安全に努めてまいりたいと思っております。宮崎県交通安全母の会でした。有難うございます。

読谷村交通安全友の会 会長
島袋 美智子

沖縄県代表の島袋　美智子と申します。宜しくお願いいたします。私は読谷村交通安全友の会という団体に所属しております。読谷村交通安全友の会は読谷村交通安全母の会を前身としており、平和で明るく住みよい地域づくりに貢献するとともに、交通安全は家庭からを合言葉に、平成元年に結成された団体です。結成当初は、読谷村に住む母親たちが子供たちの交通安全活動の為にと活動してまいりましたが、父親たちも一緒に参加してもらうことで活動の幅を広げたいと、今年から母の会から友の会と名前を変更しております。最後までよろしくお願いいたします。

小学校・幼稚園・保育園での交通安全指導、4 月新入学シーズンに開催される交通安全教室で紙芝居を実施しています。テレビや映画に見慣れている子供たちでも紙芝居は大好きです。真剣に見てくれるので、私たちもやる気があがります。また実際の信号を利用しながら、信号を渡る補助を行っております。

高齢者に対する交通安全沖縄方言紙芝居。高齢者の交通安全指導を考えたとき、子供たちで実施している紙芝居を沖縄方言で行ったら興味を持つのではと思い、シナリオを沖縄方言にアレンジして実施しています。沖縄方言で紙芝居を行うことで普段では興味の持てない高齢者も興味を持ちますし、和気あいあいと行っています。

交通安全マスコット制作と配布。結成当初より魔除け・お守りを手作りし、交通安全呼びかけをしながら配布しています。今日も新作を持参してきましたので、皆さま見て下さい。今週行われる読谷まつりで 200 個配布予定です。もらった人がずっと使ってくれるよう、かわいらしいデザインを試行錯誤し、現在ではとても人気のあるお守りです。

飲酒運転根絶アイキャッチ活動。翌日の朝に体内にアルコールが残った状態で運転してしまう二日酔い運転を根絶することを目的に、年に 4 回開催しています。交通安全期間中の早朝、読谷村の主要交差点でアイキャッチ活動をしています。気持ちよく通勤してもらい

たいので、横断幕には「安全運転でいってらっしゃい」などの文言を使用しています。
沖縄方言による交通寸劇。宴会などで余興として楽しめる交通安全寸劇「酒ぬでぃ運転絶対ならんどぉ～」です。お酒を飲んで運転しては絶対ダメだよと言う意味です。沖縄方言を使った喜劇になっているので、酒の席でも楽しく飲酒運転根絶を訴えることができ、好評を得ています。
反射材ファッションショー。道路横断中に事故に遭う高齢者が多いということで、反射材の効果を実際に見てもらい、反射材使用率アップを目的に、嘉手納警察署、嘉手納交通安全協会に協力してもらい開催しています。反射材を配ってもなかなか使用しない方は多いですが、反射材の効果を理解することで利用者は増えると思いますので、今後も継続し啓発して参ります。
各家庭個別訪問。学校や公民館などで実施している交通安全指導に参加されない方にどうやって交通安全啓発を出来るか考えたときに、全世帯に個別に訪問してはどうかという考えの下、スタートしました。チラシや反射材などを各家庭にお配りし、家庭で交通安全の話をするきっかけ作りをしています。平成 25 年にスタートしてから年間 1,000 軒を目標に活動しており、まだ全世帯は回りきれていない状況ですが、コツコツ頑張りたいと思っております。
今後の活動予定としましては自転車のマナーアップを考えております。夕方から夜間にかけて無灯火で運転している学生を見かけるので、学校付近でチラシ配布をしながら、声掛けをしていきたいと思っております。また今年から自転車乗車時のヘルメットは義務付けされておりますが、まだまだ上がっていない様に思われます。のぼり旗や横断幕を用いたアイキャッチ活動を計画中です。
次に沖縄県交通安全母の会連絡協議会の活動を報告いたします。現在 25 市町村で構成されており、秋は一斉キャンペーンと銘打ち、6 地区で同じ時間でのぼりを揚げ、チラシ配布、飲酒運転根絶ボードのアイキャッチなど行っています。本年度の一斉キャンペーンは今月 30 日月曜日に予定しております。南部の沖縄県交通安全母の会連絡協議会では、酒を飲んだら運転しないと声かけをしながら、新成人に対する飲酒運転根絶活動の一環で、成人式で紬色のお守りを一人一人手渡ししています。また沖縄地区交通安全協会と協力し、居酒屋等種類提供店に対する飲酒運転根絶活動や飲酒運転根絶アイキャッチ活動も行っております。ご清聴有難うございます。

熊本県交通安全母の会 理事
石田　ミサ子

皆様、こんにちは。只今から津奈木町交通安全母の会、石田が発表いたします。初めに津奈木町について紹介します。津奈木町は県南位置し、南は水俣市に、東は芦北町に接し、西は天草群島に相対し、人口は約 4,265 人です。
次に津奈木小学校について紹介します。生徒数 179 名、低学年 1～2 年生 47 名、中学年

3～4 年生 70 名、高学年 5～6 年生 62 名、先生方は校長先生を含めて 23 名でございます。津奈木小学校での活動は町役場・水俣警察署・交通安全協会の協力の下、小学校のグラウンドで行いました。グラウンドに仮の道路を設け、信号機も設置されました。最初の 1 時間目は 1～2 年生です。小学校では 3 年生にならないと道路で自転車を乗ることが出来ないので、1～2 年生は道路での歩き方、横断歩道・踏切の渡り方などを警察の方に指導していただきました。学校近くのオレンジ鉄道の踏切に出かけて「右よし、左よし、右よし、音よし」声を出して踏切の横断方法を指導されました。この日は自転車教室も行われ、子供たちは自転車を押して登校しました。ブレーキの利き具合、タイヤの空気は入っているか等、点検をしています。2 時間目は 3～4 年生です。自転車の乗り方は車と同じ左側通行であること、安全を確保するため、必ずヘルメットを着用する事を話されました。信号機のない交差点は必ず、対路を確認すること、渡るときは自転車を降りて、押して渡る事、自転車の手信号を習っています。3 時間目は 5～6 年生です。教頭先生から自転車の乗り方について指導をうけ、母の会も一緒に指導しています。5～6 年生になると上手に自転車に乗れます。講評では自転車と自動車は同じ左側通行、ヘルメットを被り注意してくださいと強調されていました。津奈木小学校では毎週水曜日が一斉下校となっています。交通安全母の会は下校する子供たちの見守り活動をしています。今年で 13 年目を迎えています。これで発表を終わります。ご清聴有難うございます。

佐賀市交通安全指導員会 会長
井口　一哉

皆さんこんにちは。今日、佐賀から来ました。佐賀市の交通安全指導会会長をしております井口と申します。宜しくお願いいたします。本日私が発表したいのは佐賀市の交通事故についてです。人身事故が約 1,085 件、令和 4 年度の事故です。10 月 3 日に長崎の佐世保の指導員の方と懇談会をもちました。佐世保も人口も面積も変わらないが、交通事故は 481 件。私たちの半分以下です。どうしてなのかと思ったわけです。指導員の方との話し合いをし、一番初めに言われたのが急な坂が多い、それから自転車が少ない。佐賀県の場合は一番の事故は追突事故です。二番目は自転車事故、三番目は出合い頭の事故です。この 3 つで約 70%を占めています。佐世保は今のところその自転車が少ない、坂道が多い、山手が多いというところではないかとお聞きしたわけです。警察の方はお見えになっておりませんでしたので、指導員の方との話し合いで、そういう風なことをお聞きしています。

佐賀県は令和 4 年度でワースト 3 です。こちらを見ていただいて分かりますが、平成 30 年がワースト 2、令和元年がワースト 2、令和 2 年がワースト 4、令和 3 年がワースト 3 です。私たちも一生懸命、なんとかせんといかんという気持ちがありまして、色々なことを計画しました。

それから実は皆さまのところも、一応私なりに調べてきました。一番良いところは熊本県で全国 18 位。沖縄 19 位。鹿児島が 22 位。長崎が 24 位、それから大分 27 位、宮崎はワー

スト 5 位。福岡県がワースト 4 位。佐賀県はその上のワースト 3 位です。九州は事故が多いということです。悪い所ばっかり言ってはいてもいけないので、いい所はどこかというと、一番良いのは鳥取県。二番目は島根県。三番目は秋田県。九州上位は熊本県が 18 位で一番良いということになっております。やはりこれは車の多いところ少ないところもあると思います。あとは地形の関係ですね。そういうところが一番絡んできているのではないかと思っております。

指導員の減少についてです。平成 27 年の欠員が 3 名でしたが、現在令和 5 年の 4 月で 13 名。何とかして増やしたいと思っておりますが、なかなかこれが増えないのが現状です。それから高齢化です。平成 27 年の平均年齢が 68.4 歳、今は 73 歳。私の指導員関係で 119 名いますが、その内、70 歳以上が約 80%～85%ぐらい占めております。60 歳以下の方は約 1 割。60 歳以下はどうしても仕事の関係でどうしても時間的に立てない。1 時間ぐらいの時間でも会社からそういうことするなら会社を辞めてくれればという話はよく聞きます。私の場合は会社に理解があり、こんなに長く、そして今は指導員として出来ているのではないかと思っております。皆さまとも色々なお話をお聞きしましたが、指導員減少をなんとか食い止めたいという気持ちが沢山あると思いますので、こういうことしてもらったら良いのではないかというお話を良かったら聞かせていただければと思っております。以上でございます。

鹿児島県交通安全母の会連絡協議会 副会長
金井　トキ子

本日はこの様な場所を頂けたこと、また講習会の関係者皆さまご準備など有難うございます。私は鹿児島県交通安全母の会副会長並びに日置市交通安全母の会会長の金井　トキ子と申します。本日は宜しくお願いいたします。このような場に携わったことがあまりなく緊張しております。皆様の温かいご支援をいただきますと幸いです。日置市交通安全母の会で令和 4 年度免許自主返納講演会並びに電動カート講習会を紹介させていただきたいと考えております。

交通安全母の会の主な活動内容は、スライドで写しているようなものとなっております。時間に制限がございますので、この中から抜粋し、活動内容を見ていただければと思います。見ていただいているスライドは先日開催されました。令和 5 年秋の全国交通安全運動出発式の様子となります。例年であれば、秋の全国交通安全運動期間の初日に出発式を行なわれていますが、今年は鹿児島県で「燃ゆる感動かごしま国体」が開催され、その中のレスリングと軟式野球が日置市で開催されることに伴い、交通安全運動期間が始まる前日の 9 月 20 日に出発式が行われ、母の会も参加しました。

次に命を守る旗リレーの紹介です。鹿児島県では全 33 市町村をバトンのように命を守る旗を引き継ぎながら交通安全を啓発する活動を行っており、日置市では令和 5 年 6 月下旬に引継式を行ない、7 月に小学生への交通安全啓発活動を行ないました。

次に、鹿児島県交通安全母の会補助金が交付される補助金の一覧をご紹介します。4 つの事業が該当しておりますが、この中から電動カート講習会と免許自主返納講演会の様子をこれより発表してまいりたいと思います。日置警察署交通課長にお越しいただき、免許自主返納講演会を 34 名の女性を対象に実施しました。免許証自主返納に関することや、地域の交通情勢の紹介などの講演もしました。具体的には免許証返納に関して代理人申請は行えず、申請する本人が行う必要があることや、免許証の有効期限が切れる前に申請を行う必要があり、また返納を行った後は運転をすることができないため、運転してくれる方を頼まなくてはいけなくなることなどでした。更に 1,100 円と顔写真を準備すると、身分証明書を作成することが出来ることも併せて説明がありました。

電動カート講習会では JA さつま日置とスズキ自販鹿児島の方に依頼し、DVD の視聴や電動カートについて、カート 3 台を持ってきていただいて説明を受けました。試乗が始まると、尻込みされていた参加者の皆様も徐々に試乗され、全員が電動カートを体感することができたのではないかと思います。講習を受けた皆様からの感想ですが、体験することができて安心した、免許返納したら購入を検討したいといった声が聞こえました。日置市は高齢者が多く、免許がなくなると買い物や病院などに行けず大変です。今後電動カート必要とされる人が多くなると思い、少しでも協力できることがあればとこの講習会を開催させていただきました。これで私の発表終わります。ご静聴ありがとうございました。

長崎県交通安全母の会連合会 会長

森　智子

私は長崎県交通安全母の会連合会の会長の森と申します。宜しくお願いいたします。まず簡単に当連合会の概要について説明をいたします。長崎県交通安全母の会連合会は、昭和 53 年 7 月に子供を交通事故から守るために母親が中心となって発足したボランティア団体です。小学校 PTA や地域婦人会、母の会 OB などで構成されております。令和 5 年 7 月 31 日現在、会員は 64,355 名です。少子化による子供の減少、PTA の脱退などにより、年々会員数は減っている現状です。しかしそのような現状の中でも当連合会の事業として 3 つ実施しています。

まず一つ目の事業は、長崎県交通安全キャラバン事業です。地域住民の交通安全意識を高めることを目的とし、平成 25 年度より長崎県独自の形で実施しています。9 月の秋の全国交通安全期間中に白バイ、パトカー、市・町の広報車などの車列で広報を行ない、交通安全を呼びかけています。また保育園や子ども園をキャラバン隊が訪問し、交通安全指導員による交通安全教室や、反射材などの贈呈、白バイやパトカーの見学なども行っています。令和 5 年度は 9 月 25 日に平戸市・松浦市の保育園を訪問し、約 140 名の園児に対して交通安全の大切さを伝えてまいりました。来年度で県内のほとんどの市・町を訪問することになります。これから形を変えながらでも、交通安全キャラバンを通じて交通安全を呼びかけていくつもりです。

2つ目の事業は高齢者世帯訪問事業です。この授業は交通安全教室などに参加しない、または参加できない高齢者の世帯を対象に、世帯訪問による交通安全啓発活動を行うことにより、地域社会全体で高齢者に対する交通安全意識の高揚及び交通事故の防止を図ることを目的としています。また最近では鍵かけ励行の呼びかけや、新たな手口の詐欺被害防止の注意喚起を行っています。訪問の際には訪問員 2 人以上を 1 組として、警察署などの協力も得て面接方式で実施しています。令和 3 年度 4 年度はコロナ感染拡大防止のため、商業施設や年金支給日の金融機関前の老人クラブが集まっている場所などへ赴き、配布する形で交通安全の呼び掛けを行ないました。

3つ目の事業はストップマーク啓発事業です。この事業は子供たちの交通安全意識の啓発を図るために、県内各地の通学路や飛び出し危険箇所などにストップマークを貼付しています。令和 4 年度は 830 枚のストップマークを貼付しました。最後に将来を担う子どもたちはもちろん、長年社会のために貢献されてこられた高齢者の皆様を交通事故から守るため、私たち長崎県交通安全母の会連合会は、家庭における交通安全管理者であるとの立場より今後もさまざまな交通安全啓発活動に取り組んでいきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター
特定非営利活動法人
日本こどもの安全教育総合研究所 理事長　宮田　美恵子

宮田先生：皆様ご発表頂き有難うございました。皆様方のご活動それぞれを拝聴したわけですけれども、メンバー減少を感じさせない、熱い思いが本当に伝わってくるような、活発で、行動力溢れるご活動を拝聴する事が出来ました。有難うございました。さまざまな課題点も出てきましたし。とても先進的で、ならではの地域性を生かした取り組みというのもいくつか見られたなと思い拝聴しておりましたけれども、皆様の中で更にそこを深めてみたいとか、うちではこういう課題があるけれども、他ではどうやっていますか、どんなことでもいいですし、何かご意見いただけたらと思います。会場の皆様、また ZOOM を通してご参加の皆様方いかがでしょうか。先ほどの発表、もっとこの点に聞いてみたいとかでも良いと思います。

●：長崎県から少し質問させていただきます。佐賀市の交通安全指導員の方の発表の中で、なかなか次のなり手がいないということが課題になっていたと思います。長崎県でもやはり指導員の方、また交通安全協会の方は皆さんご高齢で、次の担い手がいないということで、苦慮されているところです。一つお伺いしたいのが、市からの謝金、こちらが月額 9,310 円となっておりますが、いつからのこの金額になっているものなのか、随分昔からのこの金額であれば、見直した方が良いのではないかなと思います。次の担い手を探すのにも探しやす

いのではと思います。
●：実は 15 年ほど前に佐賀市に合併しました。その前の川添町では年間 23,000 円をいただいておりました。ただし指導委員会の懇親会などをした時にほとんど使っておりましたので、私たちの手に入るのは一つもありませんでした。佐賀市に合併して、年間 109,000 円ほどいただきます。
宮田先生：有難うございました。懇親会というのはある意味活動する中で重要で、その情報伝達や共有の場面でもありますよね。それはそれでとても大事な機会。活動のためにも使っていると思いますから、やはりそういったものはある意味必要なことだと思います。本当に持ち出して一生懸命頑張ってらっしゃるのかなと思いました。皆さま、他にいかがでしょうか？
●：宮崎県の高岡地区の交通安全協会の副会長をしております、山本と申します。各地区の方にお聞きしたいですが、どちらかと言うと、先ほど宮田先生が言われたように、防犯活動の方から交通安全の方に関わっている方が多いと思いますが、皆さんいかがでしょうか。
宮田先生：先ほど私が、防犯と交通安全は同じ道路空間で、共通で行っている方もいるのではないかということを話させていただいたことについてですよね。皆様の中で防犯・交通安全の両方を担っているという方、挙手をお願いしてもよろしいですか。皆様、交通が多いですね。今、参加の方々の中にはそれほどいらっしゃらなかったようですが、場合によると人出が減っているという事で、掛け持ちの方もいらっしゃる可能性はありますよね。私も周りにはそういう方いらっしゃりますので、恐らくいらっしゃるだろうと思います。頼られる方は色々なお役が依頼されるので、より加重になっている場合もありますから、やっぱり人手不足のところは課題が大きいと思いました。
●：沖縄県の場合、現在、飲酒運転根絶とかでチラシ配布をしますが、一つ一つ訪ねており、これも防犯に繋がっています。こちらは講評をいただいております。1 年間に 1,000 軒ぐらいチラシを入れています。
宮田先生：今日課題になっている「人が減っている」ということがあがっておりますが、沖縄県さんは独自の活発な活動されており、防犯と交通を一緒にやるっていう良さもありつつ、大変な部分もある。何か良い案はありますか。
●：沖縄県の場合は、個人でやるわけじゃなくて、自治会の区長さんも巻き込みます。そうすると民生委員も巻き込む。私、民生委員もやっておりますので、二つ三つ役割を持ちながら、そういう形で進めます。役目というか、民生委員をやったらやらないといけない、婦人会も会長になったらやらないといけないといった感じで、楽しみながら出来る人が出来る範囲でやっていく感じです。楽しんでいます。
宮田先生：有難うございます。拍手がきました。さすがですね。本当に楽しんでやってらっしゃるのが伝わってきますよね。楽しくないのは続けるのは難しいですからね。その面ではよかったと思いつつも、だいぶご負担もあるのだろうなと思いました。民生委員さんも入ることになるとまた人が広がるので、そんな考え方があるのでしょうか。

●：私は熊本県の交通安全母の会の活動の他に、わかくさ会という会で子供たちの育成をしています。それが今 32 年目になりました。町内の小学校四年生から中学生までの会員を募集します。そして一年間を通じて、毎月基本的には一回ずつの活動をしていますが、その中でやっぱり交通のことに関してとか、それから他のボランティア、掃除をしたり、文化財の障子貼りをしたりとか、ずっと年間通じて活動しながら子供達と接しているところです。ただその中で 32 年もやっていますと、協力者って呼ばれる人たちも交代しながらやってきたのですが、協力者の高齢化が目立つようになり、青少年の家にあちこち行って体験活動するのですが、昨年は出来たが今年は大丈夫だろうかとか、そういう問題もたくさん出てきますし、やっぱり新しい人を募集しても、なかなか集まりません。全くの無償ボランティアで、持ち出しすることの方が多いですが、会員の子供たちが 60 数名、以前は 500 名ぐらいのところもありました。その中でもどうにか続けてきたのですが、そろそろ町にこの役をお返しする時が来たのではないかと言いながら、やっているところです。体が動く間はやっていきたいと思っていますけれど、どうなることかとかわかりません。やはり交通安全も、人材の育成が大切だなと思いますので、今日の話はとても為になりました。

宮田先生：とてもいいお話聞かせて頂きました。本当に一生懸命伝えてくださいまして、有難うございます。その他ご意見ある方いらっしゃいますか。

●：雨の日、子供たちを親御さんが送り迎えすることが非常に多くなってきました。私たち頃は子供たちになるべく歩いて通わせていました。そうすると子供たちは冬に風邪をひかなくなります。最近の子供は親が甘やかしすぎていると思います。とにかく雨の日は立っていても子供たちが通ることがないです。皆さんそういう気持ちになることはないですか。

宮田先生：見守る方としてのお気持ち、親御さんの気持ちも分からなくはないですよね。雨は降っているし、時間があるから送ってあげようかという気持ちにもなりますよね。

●：子供を送り迎えするというのは、交通安全上の問題でなくて、私の経験ですと防犯の問題だと思います。防犯の関係で近年増えているのだと思います。

●：中学 3 年生の孫がいます。この話は耳が痛かったです。家から学校まで 3 分しかかからないですが、雷がなると、本人は要らないというが、是非送らせてと言ってしまいます。自分の子供の頃はもちろんなかったですが、どうしてもかわいくて送ってしまいます。また昨年 12 月は不審者情報も何度かあったので、登校でなく下校の見守りを行いましたが、この時間は年寄しかいなく、若い人は働いています。不審者に立ち向かうつもりでしたが、周りからはやめてと言われました。

宮田先生：拍手いただきました。有難うございました。親としては、わかりますよね。時間があれば送って行きたいはよくわかりますし、防犯では親御さんがお家に居るのであれば、途中まできてくださいとか。交通や健康から言えば、しっかり歩いて貰いたいというのもそうですし、見守り手からすれば残念な気もします。そういう意味でも同じ通学路っていう道路一つとっても、色々な危険もあれば、視点もあるという事だと思います。

●：大分県庁生活環境企画課です。今日は大分県を代表して 1 名で参加しております。私、

交通ボランティアを実際にやっているわけではないので、あまり発言ができないのですが、一点だけ今までの趣旨とちょっと逸れたようなことになってしまうのですが、私共、交通ボランティアさんを対象に研修会を毎年実施することになっております。その中のどのような研修をすればいいのかを毎年考えておりまして、今年度に関してはある程度決めているのですが、来年度に向けてもし皆さんこういった研修を県でしたり、行政がしてくれたらいいなと思う研修内容がありましたら、教えて頂きたい。交通ボランティアをされている中で、こういったことを学びたいといったことを感じていらっしゃいましたら教えていただきたいなと思います。

宮田先生：皆さんどうでしょうか。送り迎えの話もありましたけど、例えばスクールバスについてのとか。ちなみに行政としてはこんなことも出来ますなどはありますか。

●：今年度に関しては交通指導員さんに対しての研修で、横断歩道の渡り方を大分県警の方に講演していただきました。やはり交通ボランティアの方は、その地域の、交通のリーダーであるかなと思い、最近、道路交通法の改正もありましたので、そういった内容も盛り込んでいけたらと思います。

●：高校生のヘルメット着用率が悪く悩んでいるのですが、それについての何か施策や研修などありますか。

●：大分県もヘルメット着用率に関して、少し前から高校独自で義務化というような形でヘルメット着用率が高い現状ではあるのですが、交通自転車事故に関してはやはり高校生が多くなっております。自転車通学の時に交通ボランティアの方にもし何らかの指導をしていただけるのであれば、自転車の乗り方に関する研修も入れていけたらなと思います。

宮田先生：私からも質問があります。電動自転車ありますよね。私はとても怖くてね、便利ですけれども、子供さんを乗せたりしながらギュンと進んで、沢山人がいるところに突っ込みそうになったのを目撃したことあったのを思い出しました。そういったことも入れていただいてもいいかなと思いました。

■講評

最初のご発表も含めて、私の方からささやかながら、まとめのコメントを述べさせていただこうかなと思います。

先ず初めに今日の開催県でもあります、宮崎県さんからトップバッターでお話をいただきましたが、母親活動指導者講習会。この勉強会がとてもしっかりしていらっしゃいますね。一緒に勉強して自信をつけて、現場に一緒に出ていただくと、それぞれの色々な気づきも意見も出てくるでしょうから。この勉強会を充実させているっていうところがとても素晴らしいなあと思って伺っておりました。そしてその各地を回っていらっしゃるようですが、皆様、活気があって、とても楽しそうにやっていらっしゃる。楽しみながらやってくださっているというのが伝わってきて、自己実現、そして地域の安全をしっかり担っていただいている発表だと思いました。

次に、沖縄県さんですね。こちらもまずこの資料の交通安全マスコットですが交通安全をいつも見守ってくれている人が心を込めて一個ずつ作ったという、そういう気持ちも伝わっていきます。本当に一針一針、また一歩一歩ということが本当日々の積み重ねとして、とても重要な活動だと思いました。それから、この紙芝居の取り組みですが、就学前の交通安全教育は非常に重要です。特に就学を目前にした年長さんの教育は、是非充実させていただけたらありがたいなと思います。そういったことをなしに、急に今日から一年生よって言われて一人で学校行ってらっしゃいって言われる子供がどれほど不安かなと思います。その部分の指導は本当に重要なことです。そして方言を交えた紙芝居。これは私も聞きたいです。そしてお酒の席で交通安全の寸劇をやるっていう、とても効果的で素晴らしいですね。反射材ファッションショー。これも素晴らしい。もう効果が見てわかるわけですからね。こんなに効き目がわかって効果的なことはない方法だなと思って見ておりました。やっぱり目に見せることっていうのが、この活動のとても重要な点だと思います。

次は、津奈木町が発表してくださいました。こちらの学校は小規模校だと思いますけど、小規模校の良いところがとってもでていると思いました。実際、踏切の渡り方を現場でやってみることがとても大事です。少ない人数だからこそ、みんなで共有し、警察の皆さんに守っていただきながら、この実践的な活動学校指導は素晴らしいと思いました。

それから自動自転車乗り方教室も、本当に地域ぐるみでやってらっしゃる活動だなと思って拝聴しました。

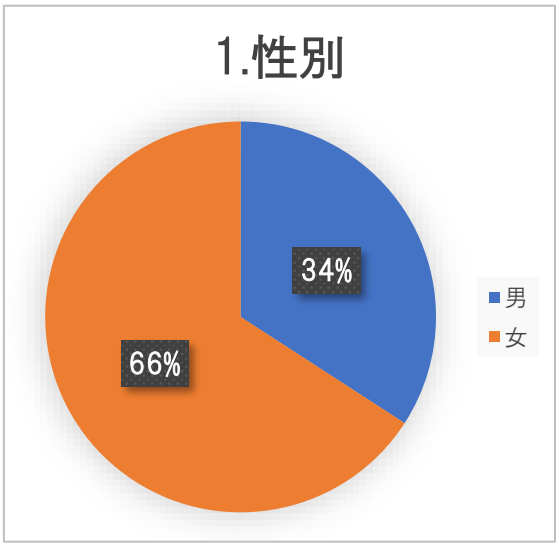
次に、佐賀県さんですね。ご活動がとても興味深かったです。佐世保は佐賀の事故の半分以下だというところに疑問を抱き、議論しに行かれる、実際に尋ねてみる、そういう活動までされているのだなと思いました。本当に熱心に取り組んでくださって、頭が下がるばかりです。本当に有難うございました。

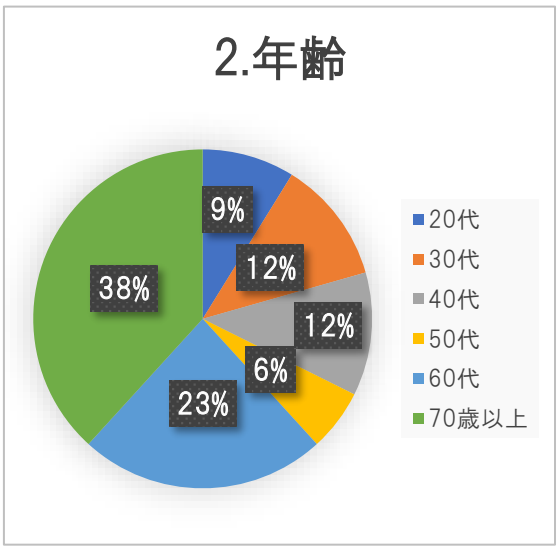
次に、日置市、鹿児島県の方々です。命を守る旗リレーが、実は非常に関心を持ったのですが、活動が具体的でとても良いなと思いました。

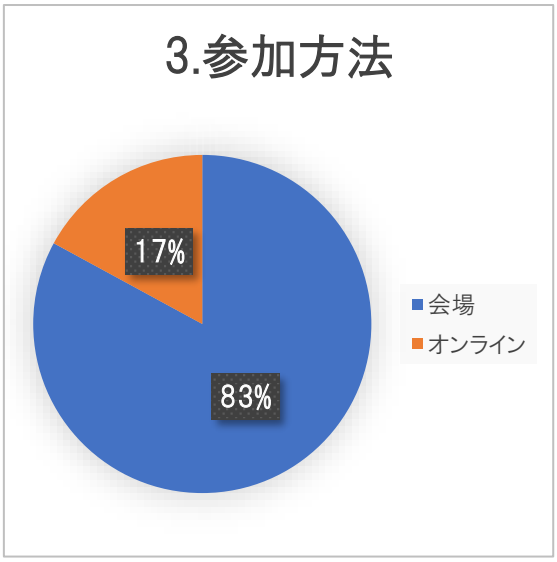
次に、長崎県さんのご発表ですが、先ほどの就学前の保育園や子ども園を訪問する活動教育、これ本当に是非続けていただきたいと思います。ドライバーや子供たちや保護者やさまざまな人たちから、皆さんの姿が見えることが担い手づくりに繋がっていきます。多くの人に見て知ってもらうことが、次の世代の見守り手を増やしていく、子供たちを育てることにもなりますので、見せる活動はとても重要です。

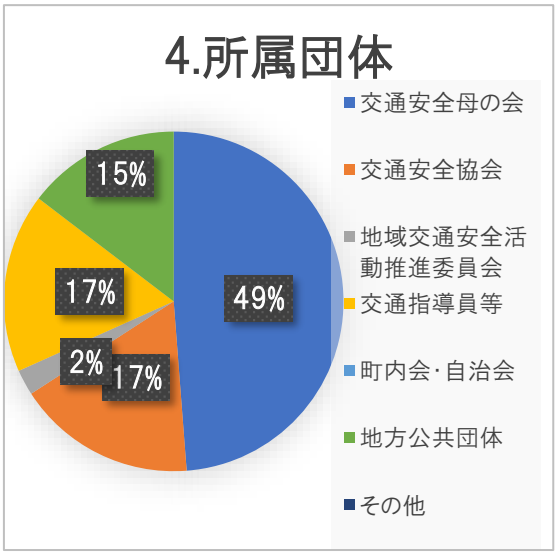
最後に本当に皆様方の活動を振り返りますと、いろんな課題もありながら、工夫してなさっていらっしゃることがよくわかりました。本当に有難うございます。まず皆様のお体に気をつけていただいて、健康が何より大事です。出来るときに出来ることを出来る人が楽しみながら行う。ご参加の皆様、大変有難うございました。

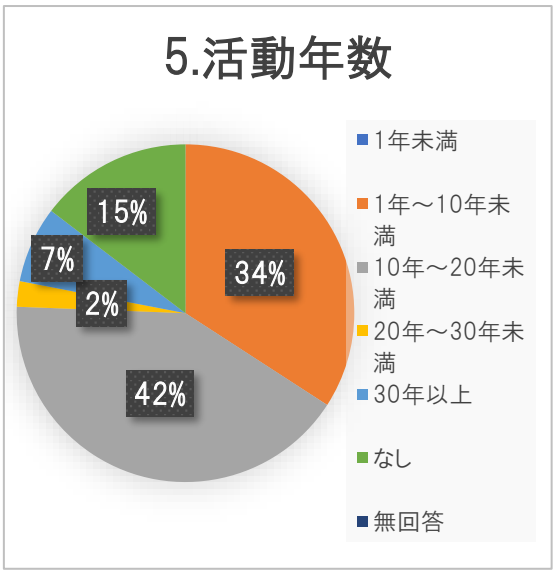
3.アンケート集計結果

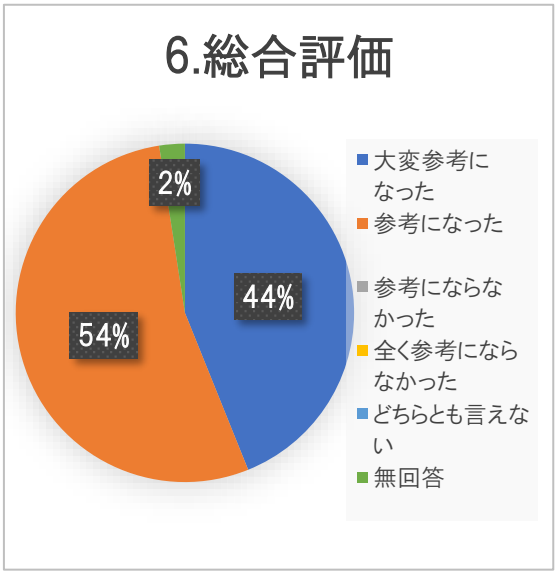

1.性別
34%
66%
男
女

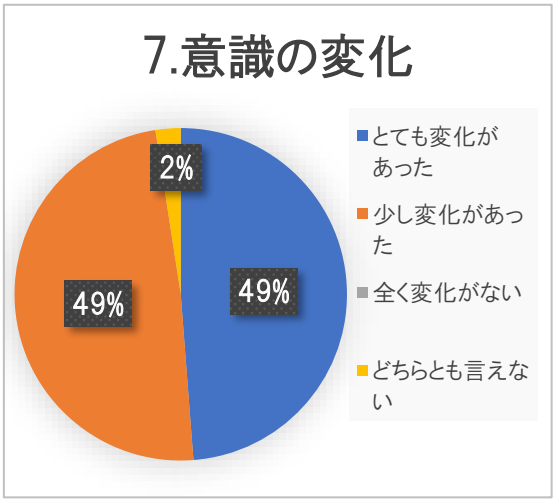

2.年齢
9%
12%
12%
6%
23%
38%
20代
30代
40代
50代
60代
70歳以上

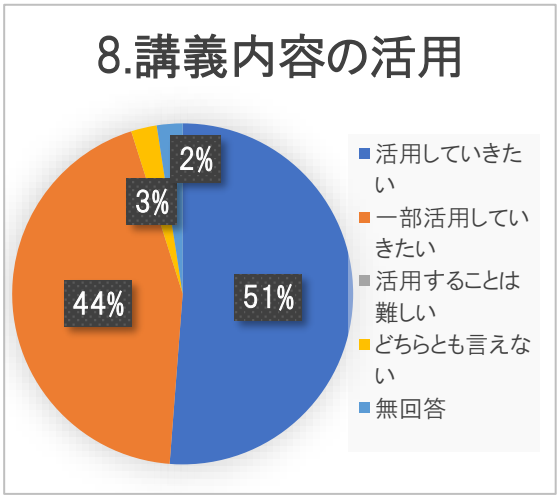

3.参加方法
17%
83%
会場
オンライン

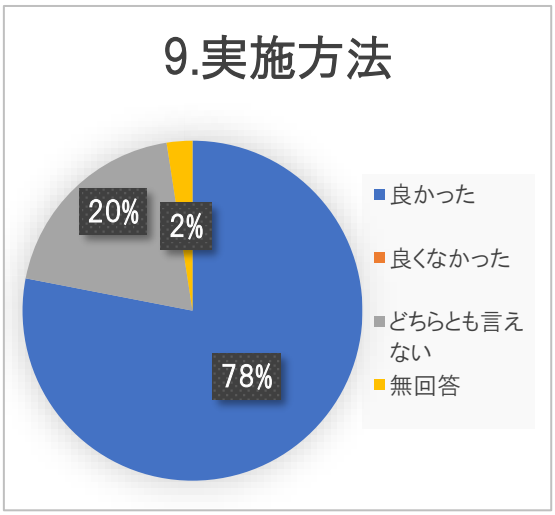

4.所属団体
15%
17%
2%
17%
49%
交通安全母の会
交通安全協会
地域交通安全活動推進委員会
交通指導員等
町内会･自治会
地方公共団体
その他

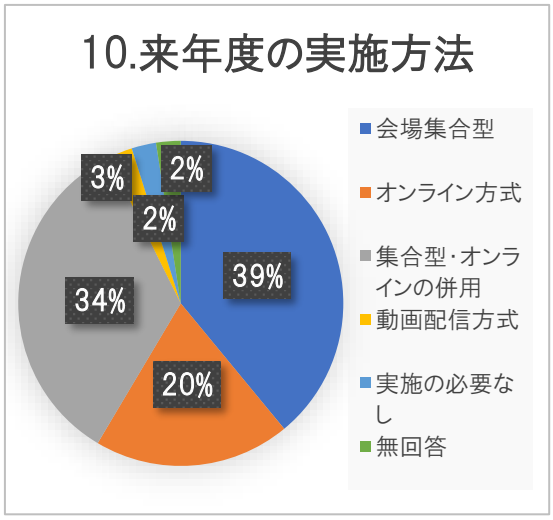

5.活動年数
15%
7%
2%
34%
42%
1年未満
1年～10年未満
10年～20年未満
20年～30年未満
30年以上
なし
無回答


6.総合評価
2%
44%
54%
大変参考になった
参考になった
参考にならなかった
全く参考にならなかった
どちらとも言えない
無回答









⑪今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

・全国各地、独自に取り組まれている交通安全対策の事例、その実践効果など
・今日の講演はとても良かった。活動報告からはさまざまなアイディアにふれることができ、今後の活動に生かすことができるのではと期待している
・自転車安全利用指導者講習会
・自転車・電動キックボード等
・幼児・子供への効果的な指導方法
・子供への交通教育
・交通ボランティアの育成と会員の増加方法について
・交通指導員の立所、場所を変えてみたらどうでしょうか
・年代別の車の運転に対する法規の遵守の考え方を知りたい
・交通事故の被害者の方、加害者の方お話を聞きたいと思います

⑫本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

・マスコット作り等をしているところもあったが、実際に実物をみてみたいと思う
・各県の交通知識強化をもっと内閣府主体でやっていただきたいです
・とても丁寧にご対応いただきました
・県内の交通安全協会の指導員研修会で毎年、各地区での活動が知れる
・講師の派遣（各県に向けて）や資料の配布等について
・横断歩道でのスムーズな停止協力方法
・気になる発言があったものの考え方はそれぞれですし、その地域団体に会うもの捜し続けトライしてみるしかないと思い活動しています

⑬本講習会の運営、スタッフについて

・会場を広く。スタッフ対応よい
・講習内容の連絡はもう少し早めにしてほしかった。午前～午後になるので昼食の案内はしてほしかった
・良かった。とても親切だった
・受付の時間がかかったのは気になりました
・集合型、オンラインの併用で大変だったろうと思います。すばらしい対応でした
・スタッフの方々の対応はとても良かったです
・とても親切で良かった
・意見交換会についてはグループワークを用いた方が意見が出やすいのではないかと思いました
・円滑・丁寧な運営でした
・運営・対応等スムーズで良かったと思う
・本日はありがとうございました
・良かったと思います
・質疑応答が聞き取れない部分がありました（前半部分）
・音声が届かなかった時がありました（これは機械などの問題ではないと思いますが）

⑭その他ご意見

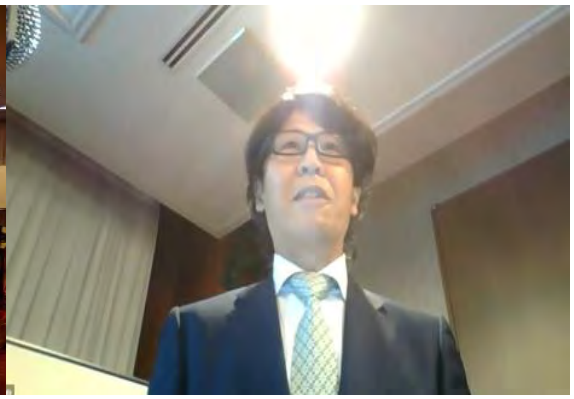
・ヘルメットの使用で鹿児島の説明で佐賀でも取り入れたい
・講習②は内容が分かりづらかった
・皆さん活動資金等についてお尋ねしたかった
・山口先生の「高齢者の運転が危ないとは言えない」とても考えさせられました。昼食を各自でという認識が皆さんに周知されてなかった様子で、困りました～！
・冷房が少し強く寒かったです

・昼食の件ですがお弁当なりを準備していただきたい。時間がないので自腹で良いので知らないところで店をさがすのが大変です
・お昼を注文取って頂きたいです
・他県から参加するのはとても大変でした
・皆さん活動資金はどうされているのか？
・初めて講習会に参加しましたが、とても参考になりました。ありがとうございました
・とても勉強になりました。ありがとうございました。初めて訪れる場所で、限られた時間で昼食を取るのは少しハードルが高い気がしました。定額制のお弁当にしては？と思いました
・本県地区では老人クラブを活用した学校周辺の見守り隊で活動してもらっています
・交通指導員も定年を 80 歳までに決めたほうがいいと思います
・指導員不足に対して増員方法の良策の方法が知りたい
・声が聞こえにくい時間が多かったです（特に事例発表）
・オンラインで参加させていただきましたが、折角活動発表されているのに声が聞き取りづらいこともあり、ちょっと残念でした。次回はぜひ会場で参加させていただきたいと思います

4.写真

【九州ブロック】

講演　宮田先生



講演　山口先生

会場の様子

活動事例発表

意見交換会

意見交換会